

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 12 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200020		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい青崎東		
所在地	〒735-0015 広島県安芸郡府中町青崎東7番1-5号 (電話) 082-581-8880		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3493200020-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・マニュアルの作成や新規職員向けのOJT制度を導入し、安心して働ける環境づくりに取り組んでいる。特定技能研修生(ベトナム)の受け入れも行っている。</p> <p>・その人らしい生活を送ることができるよう、本人やご家族の話を聞きながら利用者の生活歴の充実・それに応じた個別ケアに取り組んでいる。コロナ禍で外出の機会が減っている分、リクエストメニューの手作り食事会等、施設内で楽しんでいただける行事を増やしている。</p> <p>・府中町内の他グループホームと連携し、現在延期になっているが認知症カフェの取り組みや小学生の福祉授業のサポート等の地域活動、職員同士の座談会や勉強会などを行い、開かれた施設となるよう取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>充実した職員教育の体制を整えており、職員一人ひとりが質の高い個別ケアの提供に務めている。利用者の生活歴、強みに着目した支援は日々のコミュニケーションや家族からの丁寧な聞き取り、カンファレンスやミーティングでの情報共有、介護計画への反映を通じて「その人らしい生活」の実現へと繋げている。最近では環境に馴染めない利用者の趣味であった編み物を通じて他利用者とのコミュニケーションの促進や「自身の作品を家族にプレゼントしたい」という思いを実現した事例もある。又、利用者の残存機能を活用する為、利用者に合わせて高さ調整が可能な家具や前傾姿勢支持テーブルなどの福祉用具を活用するなど、環境面からもアプローチを行い自立支援型の介護を提供することで重度化予防に繋げている。積極的に町内会や民生委員、行政機関、地域包括支援センターなどと連携を図ることで地域に根ざした施設として地域貢献に努めている。</p>

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人は経営理念を各事業所に明示し、その理念の達成に向けて当事業所のサービス方針及び事業計画を作成しており、計画に基づいてサービスを提供するよう努めている。また、朝の申し送りでは経営理念の唱和を行い、常に理念を意識したケアを行うよう取り組んでいる。	法人理念を朝礼時に唱和することで理念にもとづき業務に務めている。法人が定める重要課題や部門目標にもとづき管理者、リーダーが協働し事業計画を定めている。各職員は事業計画にもとづく目標設定を行い日々の業務に臨むことで質の高い個別ケアの提供に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会への参加を行っている。コロナ禍により積極的な交流は少なくなっているが、広報誌の回覧や運営推進会議への町内会の方への報告は継続している。今年は町内のお祭りへの参加を復活し、感染症の状況を見ながら地域との交流を増やしている。	町内会に加入し運営推進会議の報告や掲示板や回覧板を活用し事業所の情報発信を行っている。コロナ禍により日常的な交流は少なくなっているが買い物の際には地元商店を活用するなど地域との繋がりが途絶えないよう努めている。	地域とのつながりが深く地域に根ざした施設として運営している。コロナ禍となり地域行事等の参加が難しくなっているが新しい形での地域貢献に向けて更なる取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内の他グループホームと共に連絡会を結成し、認知症カフェの開催や地域への啓発活動を行っている。また地域の学生の福祉活動補助の依頼も受けている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員の方にもご出席いただき運営推進会議におけるサービス評価の機能を活用できるよう、会議の課題などの工夫に努めている。会議における意見などは日常のサービスに反映するように努め、疑問点や相談を随時お答えし連携を深めている。	家族代表、地域包括支援センター職員など多くの参加者から事前に意見聴取を行い書面会議を開催している。意見や質問については丁寧に回答し全参加者及び入所者全家族に郵送している。面会に関する希望に対し窓越しでの面会など、一定距離を保ちながらオンライン以外の面談を可能にしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町役場への各種報告書類や届出書は、郵送ではなく訪問して提出し、担当者とのコミュニケーションの確保に努めている。町担当課の皆様には、事業所のPRや町広報誌への掲載、町主催の福祉ボランティア制度の参加などボランティア受け入れにもご助力いただいている。	日頃より担当課とのコミュニケーションを図っている。顔見知りの関係を築くことができおり、行政やケアマネジャーの入所相談から多くの入所につながっている。近隣事業所管理者と共催するグループホーム連絡会には毎回、行政担当者も参加し意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議での委員会の開催や法人内研修を通して、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について理解を深め、身体拘束廃止をきっかけに「よりよいケア」の実現に取り組みと、ケア全体の向上や生活環境の改善に努めている。	2ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催している。運営推進会議にて報告し意見聴取を行っている。年2回の法人内研修や外部研修への参加を通じて全職員へ意識啓発を行っている。利用者が行動の自由を束縛されないようリスク管理を行いながら可能な限り自由に行動できる個別ケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	運営推進会議での委員会の開催や法人内の研修を実施し、全職員が高齢者虐待防止などはあってはならないとの意識を有しており、日常的に意図して業務に従事している。ご入居者様のペースに合わせ、寄り添ったケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の対象となる入居者様がおられるが、全ての職員が、権利擁護に関する制度について認識できているという状況にはない。今後は、ご家族など関係者と連携し必要とする制度利用について支援に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書、各種同意書を掲示し、具体的に説明するよう努めている。ご入居者及びそのご家族等関係者からの不安や疑問点などは、可能な限り不安等を解消し、安心して入居していただけるよう適切な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会については、本年度の報告を含め3月の開催を計画している。ご家族面会時及び月一回のご連絡時には、ご入居者の状態報告に併せて、ご家族のご意向等をお聞きするよう努めている。契約時に重要事項説明書を掲示し、外部の相談・苦情窓口の説明を行い、職員の情報共有に努めている。	日々の会話から利用者の思いや意向を確認するよう努めている。家族には面会時や月1回の電話報告の際に意向を確認している。コロナ禍でも書面報告という形で家族会を続けている。健康状態の不安がある家族の意向に沿い医師等と連携し内服薬の調整に繋げるなど、体調管理の改善につなげている。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議及びユニットミーティング開催時に管理者が出席し、職員の意見等を聞いて必要の都度、運営に反映するよう努めている。全職員が事業所の運営に対して率直に意見を述べられるように、面談や日々の業務の中で積極的に話を聞き、意見を言える場を作っている。	管理者は6ヶ月に1回の面談以外にリーダー会議やユニットミーティング、日々の業務の中で話を聞く機会を設けている。体調変化のある利用者の臥床時間の見直しや研修で学んだポジショニングクッションの購入など、積極的に職員の意見を取り入れ個別ケアの拡充を図っている。	定期的な意見交換や研修を通じて質の高いケアの提供に繋げている。今後は全職員の研修参加を通じて個々の職員が更なるスキルアップを図ることで更なる個別ケアの向上を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、統括責任者と密に報告・連絡・相談を行いながら職員の意見なども聞き、日常的に職員のモチベーションが維持できるよう個別的に話を聞くなどの配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人及び事業所が、それぞれ年間研修企画を作成し、計画的に内部研修を実施している。また、法人が職員個別の研修費を予算化しており、職員が自らの目標を意図した外部研修に出席している。毎年1回、マイスター試験を実施し、スキルアップに対する意欲の維持・向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	町が主催する関係者協議会への出席し信頼関係の構築に努めている。また、月一回の府中町GH連絡会議を行い連携に努め、毎月合同で認知症カフェや生き生き100歳体操の開催、合同行事や職員の交換研修を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人と話をすることで、小さなことでも記録に残し職員全員で生活歴や大切にしてきたことを共有し、信頼関係が築けるように対応している。ご家族などの面会があった際にも支援につながる情報収集ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。</p>	<p>入居されてからのご様子については、面会時や電話で状況を説明したり、ご家族自身の不安なことを聞き信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族が望むことがあれば共に考え、それらに添えるように努力すると共に現段階で何を必要としているかは判断し相談など行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「共にある」ということを念頭に置き、人格を尊重して共に生活をする視点を忘れず、接遇にも十分配慮している。ご本人の生活習慣を把握し、日々の生活のなかで取り組まれるように支援している。また、本人の得意なことを見つけ出し、役割提供として生活の中で取り組んでいただいている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会や電話の際には日々の様子をお伝えするように努めている。また、家族様より質問や相談などに対応できるように努めている。話易い環境を作れるようにこちらより積極的にコミュニケーションをとるようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人が大切にして来られた方々の面会時には会話を支援するなど、継続的にご面会を頂けるような雰囲気作りに努めている。面会に来所された方が、また来所したいと感じていただける関係作り努めている。また、個別ケアとして馴染みの場所へ外出できるよう支援している。</p>	<p>難聴等による会話の難しい利用者は職員が仲介に入り対応するなどの配慮を行っている。キーパーソン以外に手紙を書きたいとの本人の意向を尊重し家族説明を行い、馴染みの関係が途切れないよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	役割提供を配分し、利用者同士で一緒に家事仕事や工作などを取り組めるように支援し、コミュニケーションを取っていただけるような環境づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去の際には、共に過ごした日々の様子を記録したアルバムを手渡して、気軽に立ち寄って頂くよう話をしている。次の生活場所の支援者に対する適切な情報提供など、必要に応じて可能な限り協力を努める。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員によって利用者の訴えも異なることがある。あらゆる場面を想定して日々の記録の共有に努めている。	利用開始時に基本情報や生活歴の聞き取りを家族より行っている。利用後は日々のコミュニケーションで得た情報を個別の人生ふりかえりシートに記入し職員間で共有し本人本位のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人及びご家族等関係者から、ご本人の生活史や生活環境などの情報をできるだけ詳細にお聴きして、ご入居者の暮らし方にあった生活作りに取り組んでいる。また、アセスメント表に入居前にご家族に生活史や馴染みの環境について、できるだけ詳細に記載いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の職員が把握した情報は、記録・申し送りにより職員間で情報を共有し、ご入居者の現状を総合的に把握するように努めている。当法人で取り組んでいる「握手」をすることで表情、手の力の入り具合などから体調に変化がないか考え、報告・連絡・相談を怠らないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン担当制をとっており、担当者は他の職員の意見も合わせて、ご本人の生活課題と適切な支援のあり方を具体的に介護計画書(案)に記載している。担当者が作成した計画書をカンファレンスで話し合い、それぞれの意見を反映させている。</p>	<p>利用者ごとに担当職員を設けることで日々の生活の中から利用者の強みを把握し本人のできることに着目した介護計画を作成している。特に短期目標に具体性を持たせることでモニタリングの際の達成状況が明確になり適切なタイミングで支援内容を見直し自立した生活の継続に繋げている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録には、生活状況やケア内容などを記載し、職員は引継ぎや記録により、ご入居者個別の情報の共有に努めている。また、記載されていることに日々のケア場面で取り組むことにより多くのことに気付くことができ、そのような内容を評価し介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族から、相談などがあつた場合には、必要の都度、法人内外の事業所と連携をとりながら、可能な限り要望にお応えできるように努めている。外出・外泊時には、同伴者への適切な介助方法の伝達や福祉用具の貸し出し等の配慮に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>買い物に行く際には、本人の体調を考慮し無理のない範囲で職員と一緒にスーパー等へ出向いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間に1回法人内のクリニック医師の往診を受けて頂いている。体調に変化が発生した場合は、その都度、訪問看護師を通じて主治医に状態報告しており、指示ある場合は、速やかに受診介助などの対応に努めている。また、ご家族の不安などについては、必要に応じて直接主治医より説明をして頂いている。</p>	<p>医療法人が経営母体であり往診や訪問看護など医療体制を整えている。主治医の変更については利用開始時に説明を行っている。本人、家族が希望すれば在宅時のかかりつけ医への受診も可能で継続した医療提供が受けられるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護師が来所し、入居者の状態観察及び医学的処置など、必要に応じて行っている。ご入居者の体調に変化が生じた場合は、休日・夜間を問わず看護師に報告・相談し、必要の都度、受診介助などの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者には、定期的に連絡を取り、病院スタッフからの情報収集に努めている。入院予定期間が急遽早まるなどの状況にも柔軟に対応するよう努めている。また、協力医療機関以外の相談員、病棟師長などスタッフとの連携も大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居契約時に重度化した場合や看取りに関する意向を確認している。看取りに関する指針を整備し、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するように努めている。本人の身体状況の変化に伴い、早い段階から家族などにも説明を行い同意を得るようにしている。	利用開始時に説明を行い、本人や家族の意向を確認している。看取り期には主治医を交え早い段階から説明を行い本人、家族の意向に添える対応を検討している。職員は年1回の看取り研修に参加している。看取り後にはラストカンファレンスを開催し経験を共有し更なるケアの向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時には、必ず記録に残し、原因とその発生時の状況・対策について職員全員で再認識するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震・火災については、年2回の消防訓練を企画している。府中町消防局の職員や設備会社の協力も頂き、消火器訓練を実施している。災害などの対策についても日々地域の方々との連携をとりながら支援を頂くようにしている。また、災害時応援協定に基づき地域との訓練も行っている。	年2回消防局、施設設備会社職員の協力を得て訓練を実施している。訓練後には訓練を見学した設備会社の報告を受け、避難方法や経路の見直しを行っている。災害時応援協定を町内会、消防団と結び、避難協力の体制が作られている。施設設備の開放や避難者の受け入れなど地域との連携強化を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への尊厳に配慮した接遇には、十分留意して接している。敬語を基本とし傾聴から入り受容を行う。その時々によって言葉でのコミュニケーションはもちろん、ジェスチャーや表情でのコミュニケーションなど、一人ひとりにあった接し方にて対応している。	利用者の尊厳に配慮し敬語を基本にして各職員が言葉遣いや本人との関係性に合わせた言葉選びを意識している。難聴など個々の利用者の状態に合わせてジェスチャーや表情の観察を行いながら利用者の思いを汲み取ることで人としての尊厳を守れるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何かを決めるときは必ずその有無を確認し対応している。 行動ひとつに対して、まずご本人様の了承、了解を得て誘導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務優先ではなく、ご利用者の生活リズムに合わせて、安全確認した上、一人ひとりご自由に過ごして頂いている。 全ての行動に声掛けをするのではなく、見守りという形で支援することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回訪問理・美容サービス業者に来所頂き、ご本人の希望に応じて、カット・毛染め・パーマなどの対応を頂いている。 誕生日プレゼントでも、日々の会話で本人の嗜好を把握し、嗜好に合ったものを職員が選び、贈っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立では、朝のパン食など一人ひとりの嗜好に合った献立を立案している。テーブル拭き、配膳など職員と共に準備している。自発的行動もあり役割が出来ている。月に1回程度、ご利用者の好みの献立を手作りし、食事会を行っている。	栄養士による献立は栄養バランスを取り食事からの健康づくりに繋げている。利用者は、配膳やテーブル拭きを職員と共に行っている。日々の会話から利用者の要望を聞き取りリクエストメニューとして取り入れている。又、季節感を感じられるよう食材や雰囲気作りに配慮し食事を楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人様の食事量、栄養状態などを把握し、食事量が減少している場合はその方が食べやすい献立の工夫に努めている。消化が良くない方については、普通米ではなくおかゆを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアについては、徹底している。また、義歯使用のご入居者には定期的にポリデントを使用し義歯洗浄に努めている。口腔スポンジやシートを使用し確実な清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツはできるだけ使用しないように、トイレでの排泄に努力している。ファンレストテーブルの導入により、トイレでの排泄が促進されている。	残存機能の活用と福祉用具や介助方法など環境面からも工夫を行うことでトイレでの排泄の促進に繋がっている。又、ICTを活用し排泄リズムの把握に務めカンファレンスで見直しや介助方法の共有を行うことで排泄の自立支援が図れている。失禁回数の減少や布パンツへの移行に繋がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	しっかり水分、食事を食べる、そして体操・散歩をして体を動かすことでほぼ便秘の方は減少している。また、排便コントロールとして、個々の排便リズムを把握した上、内服薬でも調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の意向を伺い、体調や気分配慮して入浴して頂いている。同性介助など職員との関係性も配慮して出来るだけ気持ちの良い入浴時間となるように努めている。着替えの選択時や、入浴時にも職員と一緒に会話を楽しんでいただいている。	週2～3回の入浴を基本に利用者の体調や希望に合わせている。同性介助や職員との関係性を考慮し入浴に消極的な利用者にも柔軟に対応している。又、浴槽と介助用具の高さ調整、滑り止めマットの活用や手すりの位置など浴室環境を整え、残存機能を活用し自立した入浴動作の促進を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者の生活習慣や体力に応じて、いつでも居室やリビングで休まれるよう配慮している。自立されていない方には傾眠状態時などソファへ座って休んでいただいたり、臥床スペースとしても活用している。本人に合ったクッションやタオルケットも使用し休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬に変更があった場合に職員が把握できるように記録に残している。効能についても理解できるように効能書をファイルに閉じている。変化があれば、その都度主治医、看護師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除などそれぞれ役割を持ち行動していただけるように努めている。アクティビティー、散歩、野菜収穫など外の空気を吸うことで季節を感じていただいたり気分転換を図っている。得意としている作品作りしていただきフロア内に展示している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な支援では、買い物の付き添い、近場の公園などに散歩へ出かけられる。地域の行事にも参加して楽しまれている。個別での好まれる場所への外出を支援している。	近隣の公園や買い物、施設の外周散歩を日常的に行っている。コロナ禍で積極的な外出は難しくなっているが直近では地域で行われる秋祭りに参加している。日頃から顔を合わせる利用者の顔馴染みの協力もあり、移動が難しい方も外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご入居者のお金の管理には、紛失しないように細心の注意を図っている。ご本人と話をさせて頂きながらお金を持つことの大切さや、紛失しないための管理方法などを理解して頂き、お金を使うことに関しては、職員が同行のもと、使用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等の事情に配慮しながら、ご本人からの電話を支援したり、先方から電話がある際にはご本人に取り次いでいる。 毎年年賀状を送っており、コメントを書き添えていたり、拇印を押したりと本人様のメッセージを伝えられるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	T Vを流すだけでなく、民謡や懐かしの歌などを流している。	共有スペースには大きな食器棚を配置し家庭的な雰囲気を与えるだけでなく食器の準備や片付けなど、利用者の活動促進に繋げている。テーブルや椅子は高さ違いのものを数種類用意しており利用者個々の高さに合わせ正しい姿勢で食事ができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを設置し、ご入居者のくつろげる空間の確保に努めている。安全に配慮した上で、机のレイアウト、気の合ったご入居者と談話できるように席の配置にも工夫を行っている。リビングとトイレの位置関係など利用者の状態変化に合わせて変更を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者のなじみのある使い慣れた家具や調度品類、絵画、写真などをご持参頂いている。 安全面には十分配慮し、入居者自身の在宅での生活の雰囲気作りに努めている。	利用開始前に生活歴や家族の意向を確認し使い慣れた家具や思い出のある調度品などを持ち込んでいる。又、事前に自宅を見学することでベッドの向きなどのレイアウトを可能な限り再現することで利用者が混乱することなく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体面では一人ひとりの今ある力が十分に発揮でき、自由に行動できるよう、動線上の障害物には配慮し可能な限り、広々とした空間が維持できるように努めている。		

V アウトカム項目（ Aユニット ） ← 左記（ ）内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人は経営理念を各事業所に明示し、その理念の達成に向けて当事業所のサービス方針及び事業計画を作成しており、計画に基づいてサービスを提供するよう努めている。また、朝の申し送りでは経営理念の唱和を行い、常に理念を意識したケアを行うよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会への参加を行っている。コロナ禍により積極的な交流は少なくなっているが、広報誌の回覧や運営推進会議への町内会の方への報告は継続している。今年は町内のお祭りへの参加を復活し、感染症の状況を見ながら地域との交流を増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内の他グループホームと共に連絡会を結成し、認知症カフェの開催や地域への啓発活動を行っている。また地域の学生の福祉活動補助の依頼も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員の方にもご出席いただき運営推進会議におけるサービス評価の機能を活用できるよう、会議の課題などの工夫に努めている。会議における意見などは日常のサービスに反映するように努め、疑問点や相談を随時お答えし連携を深めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町役場への各種報告書類や届出書は、郵送ではなく訪問して提出し、担当者とのコミュニケーションの確保に努めている。町担当課の皆様には、事業所のPRや町広報誌への掲載、町主催の福祉ボランティア制度の参加などボランティア受け入れにもご助力いただいている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議での委員会の開催や法人内研修を通して、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について理解を深め、身体拘束廃止をきっかけに「よりよいケア」の実現に取り組みと、ケア全体の向上や生活環境の改善に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	運営推進会議での委員会の開催や法人内の研修を実施し、全職員が高齢者虐待防止などはあってはならないとの意識を有しており、日常的に意図して業務に従事している。 ご入居者様のペースに合わせ、寄り添ったケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の対象となる入居者様がおられるが、全ての職員が、権利擁護に関する制度について認識できているという状況にはない。今後は、ご家族など関係者と連携し必要とする制度利用について支援に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書、各種同意書を掲示し、具体的に説明するよう努めている。ご入居者及びそのご家族等関係者からの不安や疑問点などは、可能な限り不安等を解消し、安心して入居していただけるよう適切な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会については、本年度の報告を含め3月の開催を計画している。 ご家族面会時及び月一回のご連絡時には、ご入居者の状態報告に併せて、ご家族のご意向等をお聞きするよう努めている。契約時に重要事項説明書を掲示し、外部の相談・苦情窓口の説明を行い、職員の情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議及びユニットミーティング開催時に管理者が出席し、職員の意見等を聞いて必要の都度、運営に反映するよう努めている。 全職員が事業所の運営に対して率直に意見を述べられるように、面談や日々の業務の中で積極的に話を聞き、意見を言える場を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、統括責任者と密に報告・連絡・相談を行いながら職員の意見なども聞き、日常的に職員のモチベーションが維持できるよう個別的に話を聞くなどの配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人及び事業所が、それぞれ年間研修企画を作成し、計画的に内部研修を実施している。また、法人が職員個別の研修費を予算化しており、職員が自らの目標を意図した外部研修に出席している。毎年1回、マイスター試験を実施し、スキルアップに対する意欲の維持・向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	町が主催する関係者協議会への出席し信頼関係の構築に努めている。また、月一回の府中町GH連絡会議を行い連携に努め、毎月合同で認知症カフェや生き生き100歳体操の開催、合同行事や職員の交換研修を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人と話をすることで、小さなことでも記録に残し職員全員で生活歴や大切にしてきたことを共有し、信頼関係が築けるように対応している。ご家族などの面会があった際にも支援につながる情報収集ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居されてからのご様子については、面会時や電話で状況を説明したり、ご家族自身の不安なことを聞き信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族が望むことがあれば共に考え、それらに添えるように努力すると共に現段階で何を必要としているかは判断し相談など行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「共にある」ということを念頭に置き、人格を尊重して共に生活をする視点を忘れず、接遇にも十分配慮している。ご本人の生活習慣を把握し、日々の生活のなかで取り組まれるように支援している。また、本人の得意なことを見つけ出し、役割提供として生活の中で取り組んでいただいている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会や電話の際には日々の様子をお伝えするように努めている。また、家族様より質問や相談などに対応できるように努めている。話易い環境を作れるようにこちらより積極的にコミュニケーションをとるようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人が大切にして来られた方々の面会時には会話を支援するなど、継続的にご面会を頂けるような雰囲気作りに努めている。面会に来所された方が、また来所したいと感じていただける関係作りに努めている。また、個別ケアとして馴染みの場所へ外出できるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	役割提供を配分し、利用者同士と一緒に家事仕事や工作などを取り組めるように支援し、コミュニケーションを取っていただけるような環境づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去の際には、共に過ごした日々様子を記録したアルバムを手渡して、気軽に立ち寄って頂くよう話をしている。次の生活場所の支援者に対する適切な情報提供など、必要に応じて可能な限り協力に努める。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員によって利用者の訴えも異なることがある。あらゆる場面を想定して日々の記録の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人及びご家族等関係者から、ご本人の生活史や生活環境などの情報をできるだけ詳細にお聴きして、ご入居者の暮らし方にあった生活作りに取り組んでいる。また、アセスメント表に入居前にご家族に生活史や馴染みの環境について、できるだけ詳細に記載いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の職員が把握した情報は、記録・申し送りにより職員間で情報を共有し、ご入居者の現状を総合的に把握するように努めている。当法人で取り組んでいる「握手」をすることで表情、手の力の入り具合などから体調に変化がないか考え、報告・連絡・相談を怠らないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン担当制をとっており、担当者は他の職員の意見も合わせて、ご本人の生活課題と適切な支援のあり方を具体的に介護計画書(案)に記載している。担当者が作成した計画書をカンファレンスで話し合い、それぞれの意見を反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には、生活状況やケア内容などを記載し、職員は引継ぎや記録により、ご入居者個別の情報の共有に努めている。また、記載されていることに日々のケア場面で取り組むことにより多くのことに気付くことができ、そのような内容を評価し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族から、相談などがあった場合には、必要の都度、法人内外の事業所と連携をとりながら、可能な限り要望にお応えできるように努めている。外出・外泊時には、同伴者への適切な介助方法の伝達や福祉用具の貸し出し等の配慮に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物に行く際には、本人の体調を考慮し無理のない範囲で職員と一緒にスーパー等へ外出している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1回法人内のクリニック医師の往診を受けて頂いている。体調に変化が発生した場合は、その都度、訪問看護師を通じて主治医に状態報告しており、指示ある場合は、速やかに受診介助などの対応に努めている。また、ご家族の不安などについては、必要に応じて直接主治医より説明をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護師が来所し、入居者の状態観察及び医学的処置など、必要に応じて行っている。 ご入居者の体調に変化が生じた場合は、休日・夜間を問わず看護師に報告・相談し、必要の都度、受診介助などの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者には、定期的に連絡を取り、病院スタッフからの情報収集に努めている。入院予定期間が急遽早まるなどの状況にも柔軟に対応するよう努めている。また、協力医療機関以外の相談員、病棟師長などスタッフとの連携も大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居契約時に重度化した場合や看取りに関する意向を確認している。 看取りに関する指針を整備し、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう努めている。本人の身体状況の変化に伴い、早い段階から家族などにも説明を行い同意を得るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時には、必ず記録に残し、原因とその発生時の状況・対策について職員全員で再認識するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震・火災については、年2回の消防訓練を企画している。府中町消防局の職員や設備会社の協力も頂き、消火器訓練を実施している。災害などの対策についても日々地域の方々との連携をとりながら支援を頂くようにしている。また、災害時応援協定に基づき地域との訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への尊厳に配慮した接遇には、十分留意して接している。敬語を基本とし傾聴から入り受容を行う。その時々によって言葉でのコミュニケーションはもちろん、ジェスチャーや表情でのコミュニケーションなど、一人ひとりにあった接し方にて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何かを決めるときは必ずその有無を確認し対応している。 行動ひとつに対して、まずご本人様の了承、了解を得て誘導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務優先ではなく、ご利用者の生活リズムに合わせて、安全確認した上、一人ひとりご自由に過ごして頂いている。 全ての行動に声掛けをするのではなく、見守りという形で支援することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回訪問理・美容サービス業者に来所頂き、ご本人の希望に応じて、カット・毛染め・パーマなどの対応を頂いている。 誕生日プレゼントでも、日々の会話で本人の嗜好を把握し、嗜好に合ったものを職員が選び、贈っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の献立では、朝のパン食など一人ひとりの嗜好に合った献立を立案している。テーブル拭き、配膳など職員と共に準備している。自発的行動もあり役割が出来ている。月に1回程度、ご利用者の好みの献立を手作りし、食事会を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人様の食事量、栄養状態などを把握し、食事量が減少している場合はその方が食べやすい献立の工夫に努めている。消化が良くない方については、普通米ではなくおかゆを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアについては、徹底している。また、義歯使用のご入居者には定期的にポリデントを使用し義歯洗浄に努めている。口腔スポンジやシートを使用し確実な清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツはできるだけ使用しないように、トイレでの排泄に努力している。ファンレストテーブルの導入により、トイレでの排泄が促進されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	しっかり水分、食事を食べる、そして体操・散歩をして体を動かすことでほぼ便秘の方は減少している。また、排便コントロールとして、個々の排便リズムを把握した上、内服薬でも調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の意向を伺い、体調や気分に配慮して入浴して頂いている。同性介助など職員との関係性も配慮して出来るだけ気持ちの良い入浴時間となるように努めている。着替えの選択時や、入浴時にも職員と一緒に会話を楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご入居者の生活習慣や体力に 応じて、いつでも居室やリビング で休まれるよう配慮している。自 立されていない方には傾眠状態 時などソファへ座って休んでい ただいたり、臥床スペースとして も活用している。本人に合った クッションやタオルケットも使 用し休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内服薬に変更があった場合に職 員が把握できるように記録に残 している。効能についても理解 できるように効能書をファイル に閉じている。変化があれば、 その都度主治医、看護師に報 告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	食材切り、盛り付け、掃除など それぞれ役割を持ち行動してい ただけるように努めている。ア クティビティー、散歩、野菜 収穫など外の空気を吸うこと で季節を感じていただいたり 気分転換を図っている。得意 としている作品作りしていただ きフロア内に展示している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	日常的な支援では、買い物の 付き添い、近場の公園などに 散歩へ出かけられる。地域の 行事にも参加して楽しまれて いる。個別での好まれる場所 への外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	ご入居者のお金の管理にして は、紛失しないように細心の 注意を図っている。ご本人と 話をさせて頂きながらお金の 持つことの大切さや、紛失し ないための管理方法などを理 解して頂き、お金の使うこと に関しては、職員が同行のも と、使用できるように支援し ている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族等の事情に配慮しながら、ご本人からの電話を支援したり、先方から電話がある際にはご本人に取り次いでいる。 毎年年賀状を送っており、コメントを書き添えていたり、拇印を押したりと本人様のメッセージを伝えられるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	TVを流すだけでなく、民謡や懐かしの歌などを流している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを設置し、ご入居者のくつろげる空間の確保に努めている。安全に配慮した上で、机のレイアウト、気の合ったご入居者と談話できるように席の配置にも工夫を行っている。リビングとトイレの位置関係など利用者の状態変化に合わせて変更を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居者のなじみのある使い慣れた家具や調度品類、絵画、写真などをご持参頂いている。 安全面には十分配慮し、入居者自身の在宅での生活の雰囲気作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体面では一人ひとりの今ある力が十分に発揮でき、自由に行動できるよう、動線上の障害物には配慮し可能な限り、広々とした空間が維持できるように努めている。		

V アウトカム項目(Bユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい青崎東

作成日 令和5年1月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	質の高いケアの提供について、職員の意欲に差が出ている。	職員全員が研修に参加でき、個々の職員のスキルアップを目指す。	個々の職員の興味関心や習熟度に応じた研修の受講を計画する。 法人内の試験に全員が挑戦するなど、目標をもつ。	1年間
2	2	コロナ禍において地域貢献への取り組みが減っている。	地域行事の参加等でない新しい形での地域貢献の取り組みをおこなう。	地域の施設として、買い物の際に地域の商店を利用する。 地元の職員やご家族に、地域にどんな資源があるのかを確認し新たな繋がりを検討する。	3カ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。